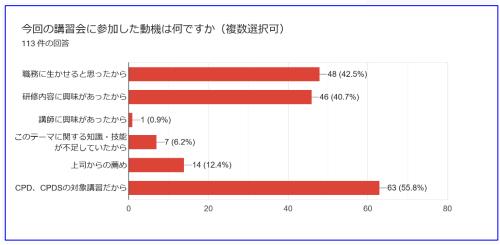
1.参加状況

区分	当初申込み	受講可人数	参加者	出席率
県	1	1	1	100.0%
市町村	7	7	6	85.7%
建設業	48	48	46	95.8%
コンサルタント	64	64	62	96.9%
その他	2	2	2	100.0%
=	122	122	117	95.9%

2.今回の講習会に参加した動機は何ですか(複数選択可)

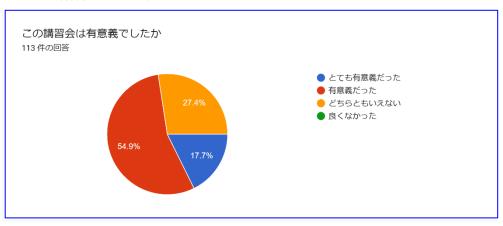


その他の場合や上記の具体的な理由を記入ください

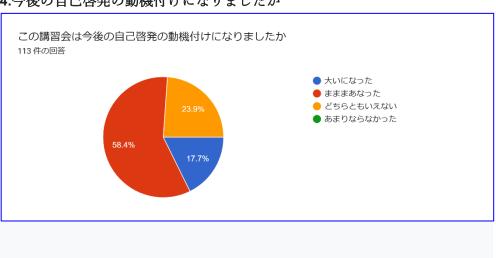
- 上司からの指示
- 一番は、やはり CPD プログラムだからです。
- 土工の点検支援技術性能カタログの最新情報に関心があり受講させて頂きま した。
- 点検支援技術性能力タログの情報が欲しかった
- CPDS対象のため
- 最近の土木技術について新しい情報があれば聞きたいと思った
- 今後の定期点検の動向を確認したかった

- 会社からのすすめ
- 最近の話題を知ることができると思ったから。

3. この講習会は有意義でしたか



4.今後の自己啓発の動機付けになりましたか



5. 講師について意見がありますか



6. この講習会を評価すると 10 点満点で何点ですか

AVE: 7. 2



評価した内容について理由があれば記入下さい

- アルカリ骨材反応の調査試験方法の特徴と選択の考え方の紹介の資料は文字も大きく分かりやすい。
- 期待以上の講義だったと思います。
- 業務に関係していたり、活かせそうな知識を得られた。

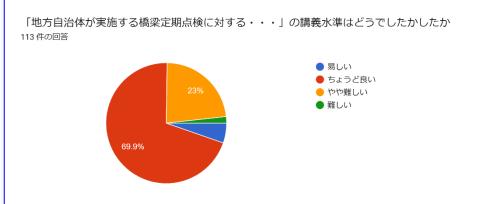
- 今回は音声がはっきり聞こえた
- 内容に満足したため
- ASR はそれほど新しさを感じなかった。
- 性能カタログはあまり理解が出来なかった。
- 最後の講義のテキストは、印刷が不明瞭であり字が読み取れなかった。スライドにホームページをそのままコピーしており、低い解像度のままテキストに印刷されたのが原因と思われる。字がつぶれたテキストは読めないので困る。
- ◆ 分かりやすい講習会でした。
- 知らないことを知ることができて勉強になった。
- テーマについて、「最近の話題」としながら、土木研究センターの取組の紹介に 偏っていたように感じた。幅広の講演内容を期待していた。
- 今後の業務に活かせそうだから

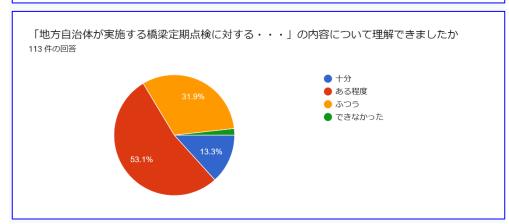
- 7. この講習会全体を通じて感じたこと、要望、提案等率直な意見を記入してください
- 期待以上の講義だったと思います。
- ▶ メモを記録するにはテキストの背景は薄い色がいいです。
- 内容を理解するのに、やや時間がかかる
- スライドとテキストの内容は同じにしてもらいたい。受講生が持って帰るのに支 障のある情報であれば、講習会で話さないで欲しい。
- テルサは車のアクセスが悪い。駐車料の負担も増える。今後、メッセが使えない際の代替施設の選定については、再度、御一考いただきたい。
- リモートでも十分だと思った
- 8. 今後の講習会に取り入れてほしいテーマ・内容等があれば記入ください
- 建設 DX に関すること
- 港湾・漁港施設の維持管理(点検、補修、施工)について
- 中国地方の豪雨、落石の現場と対策
- 島根県の基準書(道路事業設計要領、河川計画実施要領)について説明会
- 道路橋定期点検要領の内容説明(要領を更新をされるが、打合せで担当者と 受注者の理解が違うため判断が異なることがある)
- まちづくり関係の取組に関する話題・講義に興味があるのでお願いしたい。
- 橋梁定期点検要領の改訂について(様式記載について(参考事例))
- 2024 問題などに起因する人不足問題は官民一体となって取り組むべきテーマ だと思う
- 受講料無料の講習会を増やしてほしい。
- 公共工事の評定点を付ける時の実情

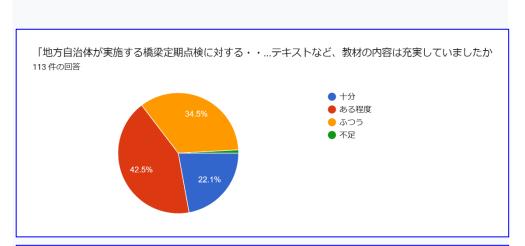
- 9. 今回の講習会に限らず、今後「島根県建設技術センター」に取り組んで 欲しい内容や開催して欲しいイベントがあれば記入ください
- もっと暇な時期(春先とか)に講習があると良い。
- 新技術の紹介と体験
- 道路橋定期点検方法や判断の現地実施会、それ以外の点検についても同様
- マンホールの修繕、更生工法、必要性
- 親子で楽しめるイベント
- 駐車場代ぐらいは負担して欲しい

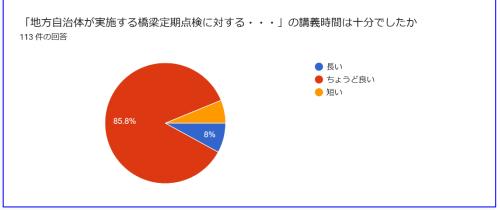
10. 講習会科目「地方自治体が実施する橋梁定期点検に対する土木研究センターの支援取り組み状況の紹介」について

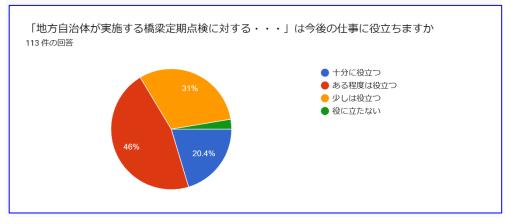












講習会科目「地方自治体が実施する橋梁定期点検に対する土木研究センターの支援 取り組み状況の紹介」の意見・感想・要望・質問があれば記入ください

- 自分の仕事に直決していない。
- 点検調書の記載の時には、構造物全体の安全性の見立てが必要な事を理解した。そのため、土木研究センターの支援は重要だと思いました。ありがとうございました。
- 添付資料の写真が小さくて見づらいです
- 取り組み状況がわかりやすかった
- 講師の方、テンポよく聞きやすかった
- データ解説はそこそこにして、国交省が点検要領を更新したので、その内容説明を詳しくしてほしかった。
- スライド、テキストの文字が多い。イラストをもう少し使って視覚的に理解できる ようにしてもらいたい。
- 補修設計に関する課題事例の話で、主桁の当て板補修工において削孔に伴う 補剛材等への応力の増大を計算した方が良いとのことでしたが、支点部の補 剛材の孔食(断面欠損)を当て板補修する際にはウェブ等の応力の増大を計算 した方が良いのでしょうか。片側にする等の対応をして、補修箇所直上に荷重 がかかっていない状態にしても計算は必要となるのでしょうか。
- 講義ありがとうございました。今後の業務を取り組む上で大変参考になる内容でした。

質問 1__道路橋定期点検要領の改訂内容について

様式の記入内容がより専門性を求められている様に感じました(特に様式3の所見欄など)。今後の定期点検では、所見欄の回答ができる位の 橋梁に関する知識が求められていくのでしょうか。

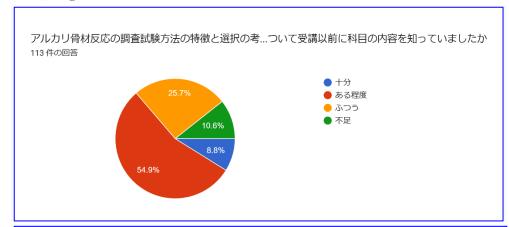
質問 2_診断個票、補修設計仕様書について

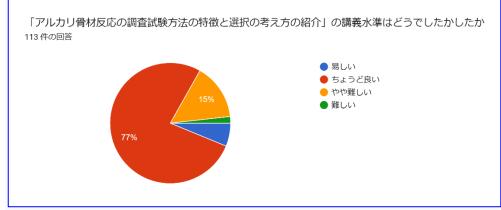
質問 1 に関連して、上記の資料は大変有用だと思うのですが、参考資料として HP 等で公開されていたりするのでしょうか。(資料公開、販売等はあるのでしょうか。)

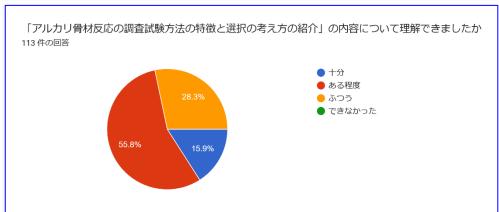
以上、よろしくお願いします。

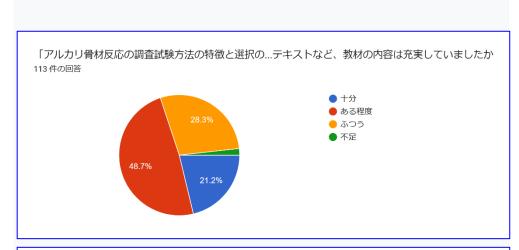
- 点検要領改訂の背景を理解出来たので、大変有意義でした
- 当て板補修設計に求めるものとして孔欠損部の反力を支持できる程度の範囲とすること、活荷重反力の算定を全載荷反力程度としその計算根拠を提示すること、母材への削孔を行う場合は、削孔により応力上改悪とならないよう設計(ボルト1箇所ずつの施工)等、非常に重要な設計方針と認識しておりましたが、実業務では検討されていないケースがほとんどかと思います。実際に補修設計業務の特記仕様書に記載される場合、作業量が増加すると思うのですが、当て板補修の積算の考え方は、従来通り変更が無いものでしょうか。それとも上記検討に必要な計算は別途請求するような考え方でよろしいのでしょうか。動向について何か分かればご教示ください。

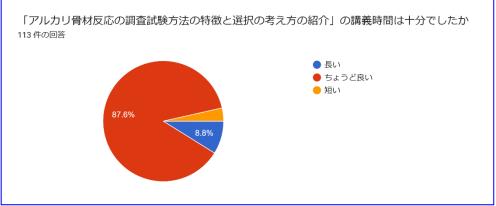
11. 講習会科目「アルカリ骨材反応の調査試験方法の特徴と選択の考え方の 紹介」について

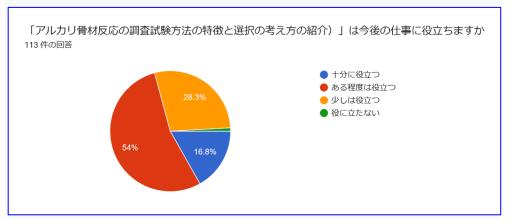












講習会科目「アルカリ骨材反応の調査試験方法の特徴と選択の考え方の紹介」の意見・感想・要望・質問があれば記入ください

- テキストの文字も写真も大きく分かりやすかった。
- 橋梁定期点検業務を受注した時、安全性の見立てに役立てたいと思いました。ありがとうございました。
- 写真が多くわかりやすかった
- 以前から業務で実施していたため、全体的に内容はわかっていた。
- ASR に詳しい技術者でないと理解しにくかったのでは・・・
- 具体例の紹介があったが、テキストに載せてくれなかった。講義後、形に残らないため参考にできないのが残念であった。
- 反応生成物分析結果の中でアルカリ-カルシウム-シリカ型(K濃度)という分類があるのですが、アルカリ-カルシウム-シリカ型との物性的な違いはどういったところにあるのでしょうか。反応速度や膨張量が変わるのでしょうか。また、ASR が主原因のひび割れがある橋台で、ASR の影響でコンクリートの打継目(施工不良)が大きく開いている場合があると聞いたことがあるのですが、施工不良の打継目が ASR の影響で開くメカニズムを教えていただけますでしょうか。
- 講義ありがとうございました。実務において大変参考になる内容でした。

質問 1 ASR に似た変状(エトリンガイトの遅延生成(DEF))について

講義内容に無い質問ですみません。ASR とよく似たひび割れパターンとなる変状で DEF というものがあることを最近知ったのですが、ASR と異なる特徴や見分け方(試験等)はあるのでしょうか。また、補修方法について ASR と変状が似ていることから、ASR の補修方法と同じ考え方で良いのでしょうか。今回 ASR の講義がありましたので質問させて頂きました。何か情報がありましたらご教授下さい。

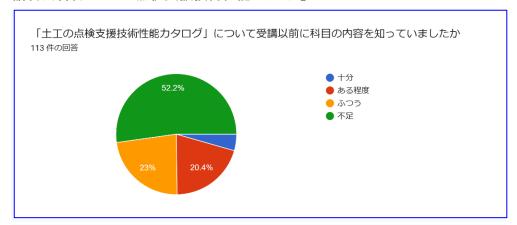
以上、よろしくお願いします。

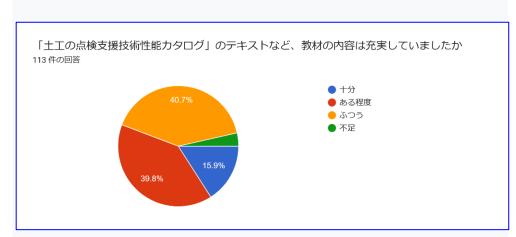
● 詳細を知らなかった内容で興味深かった

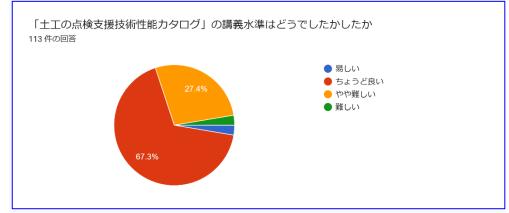
- 促進膨張試験結果の判定基準は、JCI-S-011-2017 以外はなかったと思います。飽和 NaCl 溶液浸漬法やアルカリ溶液浸漬法の判定については、膨張率の評価をどのように行っているかご教示ください。(構造物から採取したコアの判定になります)
- 講習テキスト P29 に促進膨張試験についての説明がありましたが、試験の判定基準についてお伺いします。「コンクリート診断技術'23」P230 に、JCI-S-011 は判定基準: あり、デンマーク法とカナダ法には判定基準: なしと記載されています。この記述から判断すると、促進膨張試験は JCI-S-011 のみ残存膨張性の判定が可能と読み取れるのですが、デンマーク法やカナダ法では残存膨張性の有無について判定することはできないのでしょうか。(以前は判定基準の記載があったと思うのですが。0.1%未満: 無害など)

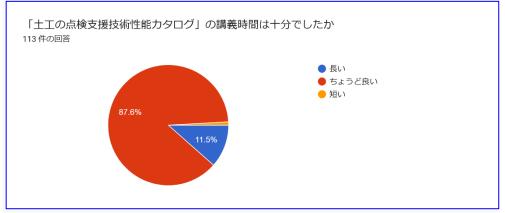
仮にカナダ法で促進膨張試験を行った場合、膨張の有無で残存膨張性についてどのような判断をすることが考えられるでしょうか。ご教授頂けると幸いです。 以上、よろしくお願いします。

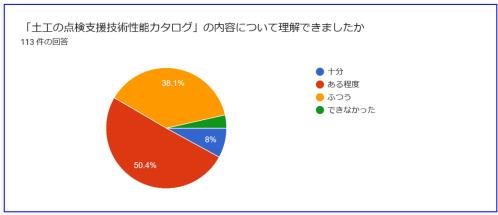
12. 講習会科目「土工の点検支援技術性能力タログ」について

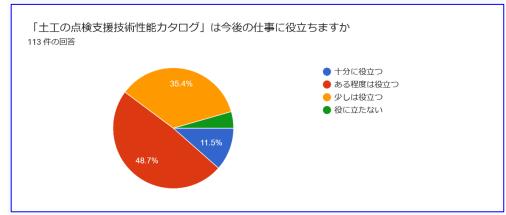












講習会科目「土工の点検支援技術性能カタログ」の意見・感想・要望・ 質問があれば記入してください。

● 各構造物点検において、新たな点検技術の採用は柔軟に採用できる様、合理 化されている。

そのための統一されたカタログ表記となるよう整理される『土木研究センター』 の役割は大きいと思いました。ありがとうございました。

- ◆ 土工点検に携るため、タイムリーな情報
- 性能カタログがどのようなものかはわかった。抜粋資料文字がコピーしたものが見にくい。
- 説明が理解できなかった。開発者の申請の仕方と利用者の利用については実際やってみないとわからないと思う。

どれかに特化して流れを説明してもらえるとよかったと思う。

- 内容的にやや難しかった(理解に時間を要する)
- スライド、テキストのホームページ引用の文字が小さすぎて、解像度も悪く読めなかった。そのため、何を言いたいのか今一つ伝わらなかった。受講生に伝えたければ文字を大きく明瞭にしてもらいたい。
- 点検カタログを参考にしてみようと思います。
- 講義ありがとうございました。今後の業務において参考になる内容でした。 点検業務において新技術の活用に取り組む上で、性能カタログは選定に有効 であることが分かりました。また、その使い方・考え方について知ることができ勉 強になりました。
- 業務でカタログ掲載技術を活用したい場合、同様の機材を揃え性能検証できれば開発者以外でもその掲載技術を適用したことになりますか。















